

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年 1月26日

協議会名: 桐生市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー (運行区域:黒保根地区)	<p>・運転免許証を自主返納した方に対し、デマンドタクシーの回数券の無償交付を継続して行っている。また、わたらせ渓谷鐵道においても、運転経歴証明書を取得した全国の方に対して、普通運賃の50%割引を実施しており、行政、鉄道事業者ともに、移動の利便性の向上を図るための施策などを継続的に実施している。</p> <p>・黒保根町内の高齢者の憩いの場として水沼温泉センターなど、事業所の協力を得てデマンドタクシーの利用案内の設置を行い、利用促進を図っている。</p> <p>・令和4年3月にデマンドタクシー車両の更新を行い、案内チラシの見直しを行った。また、利用者の方に安心して乗車していただけるよう、引き続き感染症対策を徹底している。</p> <p>・利用者の移動実態を把握し、人々の生活を捉えた交通サービスとなるよう、年齢階層別、時間帯別等様々な視点からの利用状況に関するデータの収集・蓄積を継続的に実施している。診療を再開した水沼診療所へは、利用者の往来が確認できたので、案内チラシの設置など診療所へ協力を求めている。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	C <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の1日平均利用者は14.6人であったのに対して、今年度は13.5人となり、引き続き目標である20人/日を下回る状況が続いている。このことは、収束が見えない新型コロナウイルス感染症により地元住民の移動機会の減少や相乗り乗車の敬遠、長引く観光客の減少等が要因に考えられる。 ・利用者の約半数が高齢者・障がい者・黒保根学園の生徒(部活動)などの交通弱者であり、デマンドタクシーが幅広い年齢層の日常生活に必要な移動手段を安定的に確保することができているものと考えられる。また、わたらせ渓谷鐵道水沼駅に接続されるものが大半であることから、幹線を結ぶ支線としての役割を果たしており、町外への交通手段は確保されている。 	<p>・運行事業者から報告される日報などから利用状況を分析し、利用実態を把握することを継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証自主返納者に対し、引き続き黒保根町デマンドタクシーの回数券を交付する支援事業を行い、市民が自家用自動車に頼らずとも生活できる環境整備に努める。 ・安心してデマンドタクシーを利用してもらえるよう、感染防止を徹底し、利用案内のチラシ等でも周知することで利用促進につなげる。 ・黒保根町内での催しを行う際などには、移動手段としてデマンドタクシーを積極的に利用していただけるよう、イベントの情報とあわせてデマンドタクシーの周知を行っていく。 <p>【今後の目標値について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の利用者数の変動に注視しながら慎重に目標値の検討を行う。

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年 1月26日

協議会名：	桐生市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	過疎地域に指定される黒保根町では、集落が点在しており、路線バスの運行では生活交通としての役割を担うことが難しい状況であったため、多額の経費がかかり、利用者の少ない非効率的な運行であった路線バスから地域の特性・実情に応じた効率的な公共交通ネットワークへの転換を図るため、平成25年4月からデマンド交通を導入した。他の交通手段との役割分担を明確にしながら、持続可能な公共交通体系を目指す。